

# 三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

## 愛称：ブルーゴールド

追加型投信／内外／株式

作成対象期間：2019年7月23日～2020年7月22日

第 13 期 決算日：2020年7月22日

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
当ファンドは、主として外国投資信託への投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式などを高位に組み入れた運用を行い中長期的な値上がり益の獲得をめざす運用を行うことを目的としております。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

#### 第13期末（2020年7月22日）

基準価額	9,645円
純資産総額	3,264百万円
騰落率	+0.7%
分配金合計 <sup>(*)</sup>	0円

(\*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に  
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで  
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

#### ■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用  
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

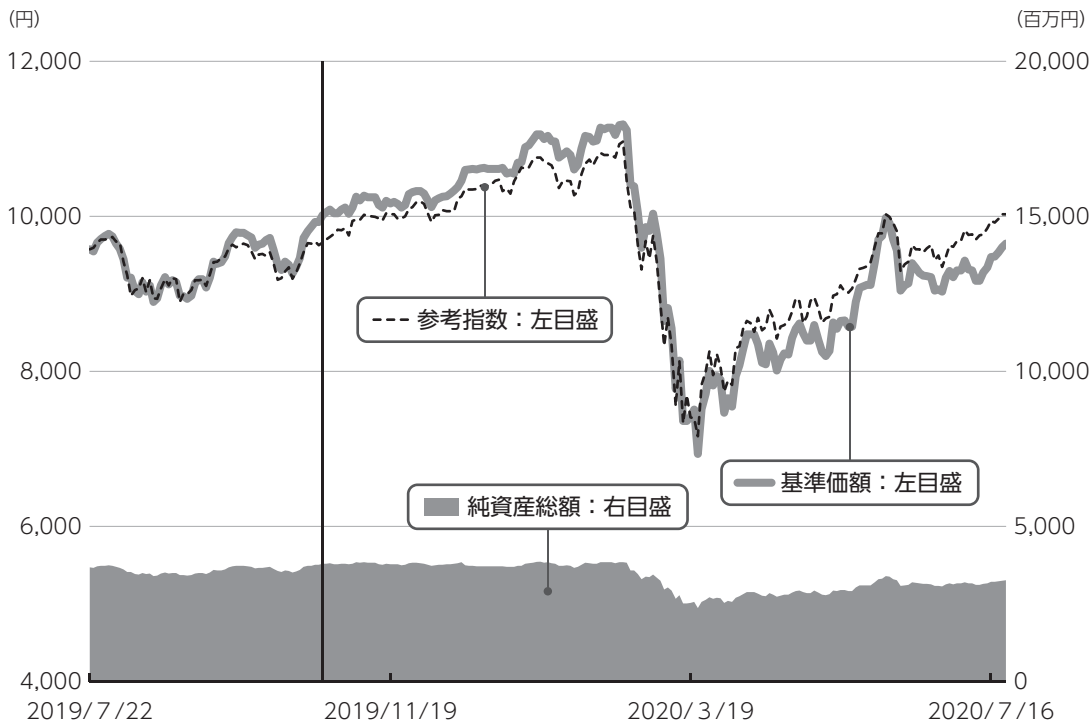
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

# 運用経過

第13期：2019年7月23日～2020年7月22日

## ▶ 当期中の基準価額等の推移について

### 基準価額等の推移



※2019年10月23日に外国投資信託証券の入れ替えが終了したため、区切り線を入れております。

第13期首	9,576円
第13期末	9,645円
既払分配金	0円
騰落率	0.7%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

**基準価額の動き**

基準価額は期首に比べ0.7%の上昇となりました。  
なお、期中に外国投資信託証券の入れ替えを行いました。

**> 基準価額の主な変動要因****上昇要因**

PENNON GROUP PLC（イギリス）、FORTUNE BRANDS HOME & SECURI（アメリカ）などの一部水関連企業の株価が上昇したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。

**下落要因**

米ドルが円に対して下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

※参考指数は、MSCI ワールド インデックス（円換算ベース）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※参考指数は、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2019年7月23日～2020年7月22日

## 1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	105	1.099	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	( 26 )	( 0.275 )	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	( 73 )	( 0.769 )	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 5 )	( 0.055 )	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0 )	( 0.003 )	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	105	1.102	

期中の平均基準価額は、9,534円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

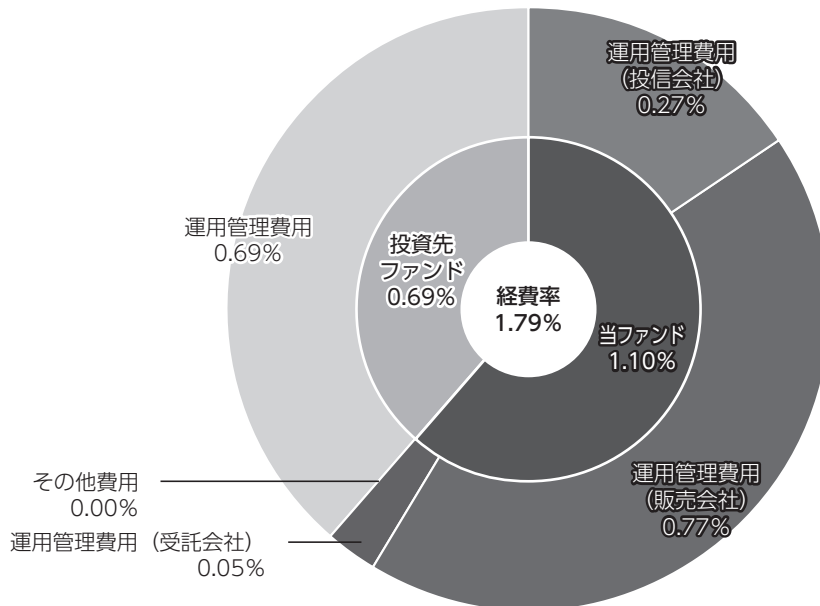
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ■経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**経費率（年率）は1.79%**です。



経費率 (①+②)	(%)	1.79
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.10
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.69

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

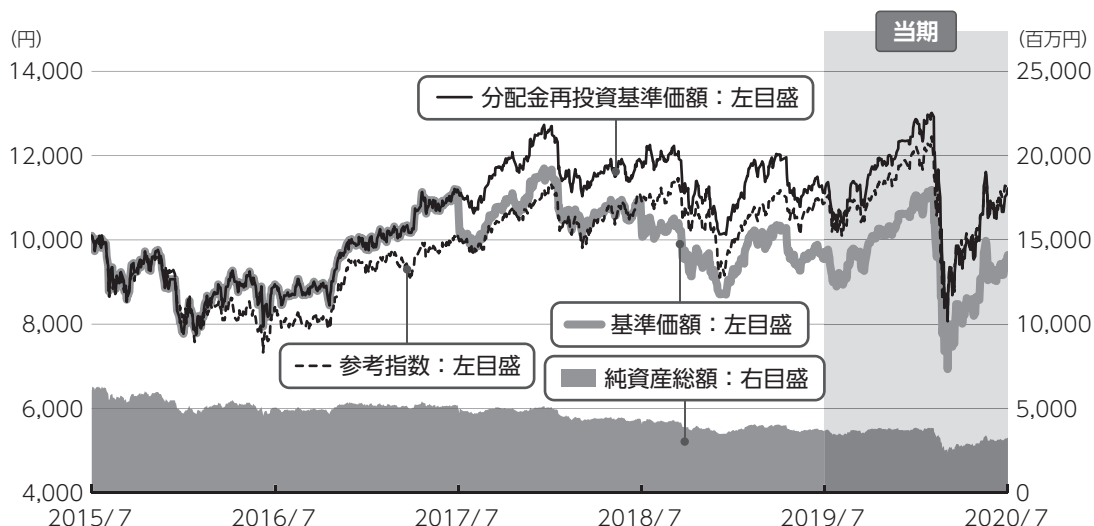
(注) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、前記には含まれておりません。

2015年7月22日～2020年7月22日

## 最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額、参考指数は、2015年7月22日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。  
 ※海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

## 最近5年間の年間騰落率

	2015/7/22 期初	2016/7/22 決算日	2017/7/24 決算日	2018/7/23 決算日	2019/7/22 決算日	2020/7/22 決算日
基準価額 (円)	10,100	8,912	10,195	10,132	9,576	9,645
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	900	700	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-11.8	24.5	6.2	-5.5	0.7
参考指数騰落率 (%)	—	-18.1	20.5	9.3	-0.2	4.7
純資産総額 (百万円)	6,056	5,048	4,717	4,057	3,676	3,264

※ファンド年間騰落率は、参考指数年間騰落率と比較するため、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

参考指数は、MSCI ワールド インデックス (円換算ベース) です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

## 投資環境について

### ▶ 株式市況

#### 株式市況は上昇しました。

期首から2020年2月中旬にかけては、米中貿易摩擦に対する懸念が後退したことや英国の欧州連合（EU）離脱への政治不透明感が払拭されたことなどを背景に上昇しました。2月下旬から3月中旬にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気減速懸念などを受けて下落しました。その後は、各国中央銀行による積極的な金融緩和や各国政府による支援策が好感されたことに加え、欧米の経済活動再開への期待が高まったことから上昇しました。

### ▶ 為替市況

#### 米ドルは円に対して下落しました。

期首から2020年2月中旬にかけては、米中貿易摩擦への警戒感などから下落する局面があったものの、米国の一部経済指標が市場予想を上回ったことを受け、米ドルは対円で上昇基調で推移しました。2月下旬から3月上旬にかけては、新型コロナウイルスの感染が拡大したことなどから一時米ドルは対円で下落しました。その後は景気回復への楽観的な見方が広まったことなどが上昇要因となった一方、

日米金利差が縮小するとの見方などが下落要因となり、一進一退の動きとなりました。

### ▶ 国内短期債券市況

#### 国内金利は上昇、事業債の国債とのスプレッド（利回り格差）は小幅拡大しました。

国内金利は、期首から2019年9月下旬にかけて日銀による追加緩和観測などから低下基調となった後、12月下旬にかけては、同観測の後退などから上昇基調となりました。その後、2020年3月上旬にかけて米金利の低下などを背景に国内金利も低下したものの、4月上旬にかけては新型コロナウイルス感染拡大に伴う金融市場の混乱を受けて保有資産の現金化の動きが進んだことなどから、国内金利は上昇しました。期末にかけては、国内金利は横ばい圏で推移しました。

こうしたなか事業債の国債とのスプレッドは、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などが相場の下支えとなったものの、国内金利が低下した2019年8月頃や、新型コロナウイルス感染拡大による世界景気への懸念が高まった2020年3月頃に拡大しました。

## ▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

### ▶ 三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

アイルランド籍外国投資法人であるK B Iエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）<sup>\*</sup>の円建外国投資証券への投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式などを実質的な主要投資対象とし、中長期的な値上がり益の獲得をめざした運用を行いました。また、日本短期債券マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行いました。

<sup>\*</sup>2019年10月22日までは、アイルランド籍円建外国投資信託「K B Iエコ・ウォーター・ファンド」に投資しました。2019年10月23日以降は、当該外国投資信託と同様の商品性を有する、外国投資法人である「K B Iエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）」の円建外国投資証券への投資に変更しました。

### ▶ K B Iエコ・ウォーター・ファンド

成長見通しが明るいとされる企業や、水関連の各分野で市場を牽引していくような企業への投資を継続しました。

投資分野別では、「水関連装置」、「公益事業」、「水処理技術」の3つの分野を中心とした投資を継続しました。

「水関連装置」分野については、今後の水関連需要の増加が見込まれると考え投資を継続しました。

「公益事業」分野については、水関連需要の高まりから関連銘柄への投資のほか、

株式市場全体の変動性が高まった場合の株価の安定性を期待し、投資を継続しました。

「水処理技術」分野については、中国などにおける水質汚染に対する規制強化などから、高い技術を有する企業が恩恵を受けると考え投資を継続しました。

### ▶ K B Iエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）－クラスA

成長見通しが明るいとされる企業や、水関連の各分野で市場を牽引していくような企業への投資を継続しました。

投資分野別では、「水関連装置」、「公益事業」、「水処理技術」の3つの分野を中心とした投資を継続しました。

「水関連装置」分野については、今後の水関連需要の増加が見込まれると考え投資を継続しました。

「公益事業」分野については、水関連需要の高まりから関連銘柄への投資のほか、株式市場全体の変動性が高まった場合の株価の安定性を期待し、投資を継続しました。

「水処理技術」分野については、中国などにおける水質汚染に対する規制強化などから、高い技術を有する企業が恩恵を受けると考え投資を継続しました。



## ▶ 日本短期債券マザーファンド

### 組入比率

期を通じて高位組み入れを維持しました。

### 債券種別構成

国内金利の低位安定推移を見込み、利回り向上の観点から一般債をオーバーウェイトとしました。

### デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

2020年3月中旬から4月下旬にかけては

事業債市場の更なる悪化を見込み中期ゾーンの一般債を売却し、デュレーションはベンチマーク（NOMUR A-B P1 短期）対比短めとしたものの、それ以外の期間については日銀の緩和的スタンス継続から、デュレーションはベンチマーク並みで調整しました。

### 残存期間構成

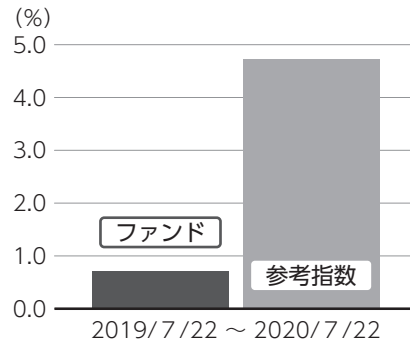
利回り向上の観点から中期ゾーンをオーバーウェイトとしました。

## ▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。

参考指数はMSCI ワールド インデックス（円換算ベース）です。

### 基準価額と参考指数の対比（騰落率）



## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第13期 2019年7月23日～2020年7月22日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	651

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### ▶ 三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

アイルランド籍外国投資法人であるKBIエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）の円建外国投資証券および証券投資信託である日本短期債券マザーファンドに投資を行います。

### ▶ KBIエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）－クラスA

世界的に水の使用量拡大が見込まれることなどを背景に、水関連市場における需要は引き続き強いと考えています。特に、水インフラ関連への設備投資は、情報技術などを活用した新たな水インフラの拡大や地球温暖化の問題などを背景に、今後グローバルに増加するとみられ、良好な投資環境が継続すると考えています。

バリュエーションを重視しつつ、独自のテーマに基づき今後の業績拡大が期待できる企業に注目します。加えて、財務改善策や事業再編への取り組みにも注目し、銘柄選別を実施する方針です。

### ▶ 日本短期債券マザーファンド

安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位に維持する方針です。

新型コロナウイルス感染拡大などから、本邦景気はこのところ弱い動きとなっています。こうしたなか、消費者物価の前年比は依然として2%に遠く、日銀は引き続き強力な金融緩和を粘り強く続けていくと思われ、中短期金利は引き続き低位での推移を想定します。ファンド全体のデュレーションは、ベンチマーク並みを基本に調整する方針です。

一般債のスプレッドについては、新型コロナウイルス感染拡大による世界景気への懸念などが拡大圧力となる一方、日銀の社債オペ拡充などが縮小圧力になるとみています。こうしたなか、一般債は国債と異なりプラス利回りを維持できると予想していることから、債券種別構成は流動性や銘柄分散に留意しつつ、プラス利回りである一般債の組入比率をベンチマーク比高めに維持します。

# お知らせ

## ▶ 約款変更

- ・運用の効率化を図るため、投資対象とする投資信託証券について同一の運用を行う新設の投資信託証券へ変更を行い、信託約款に所要の変更を行いました。

変更前：外国投資信託KBIエコ・ウォーター・ファンド → 変更後：外国投資法人KBIエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）の投資信託証券（クラスA）（2019年10月23日）

## ▶ その他

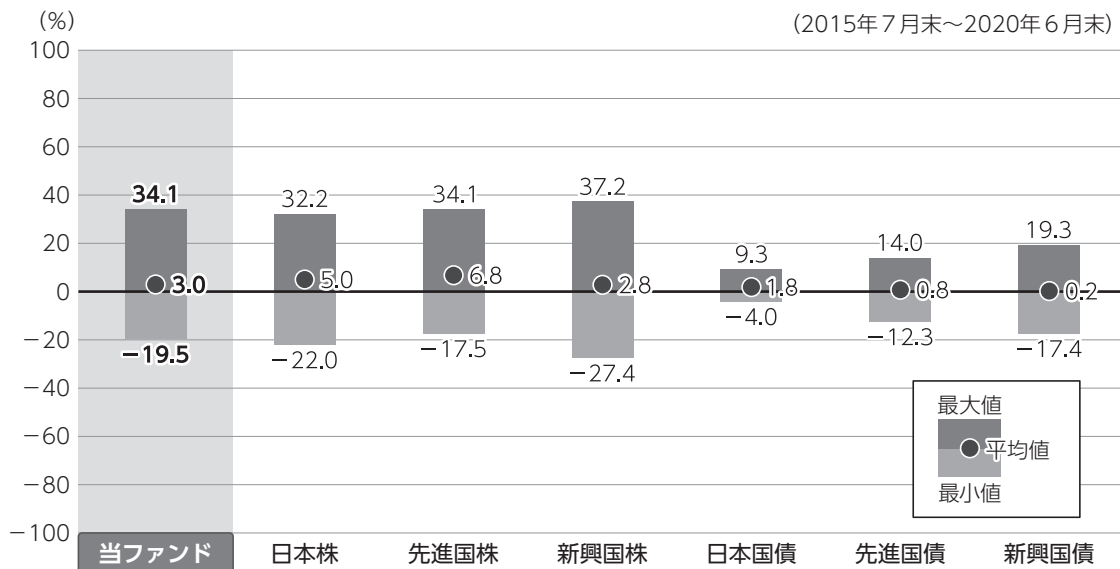
- ・該当事項はありません。

\*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。  
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

# 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2024年7月22日まで（2007年7月27日設定）
運用方針	主として円建ての外国投資法人であるKBIエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）の投資信託証券（クラスA）および証券投資信託である日本短期債券マザーファンドの投資信託証券への投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式に実質的な投資を行います。実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主要投資対象	<p>■当ファンド</p> <p>円建ての外国投資法人であるKBIエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）の投資信託証券（クラスA）および証券投資信託である日本短期債券マザーファンドの投資信託証券への投資を主要投資対象とします。</p> <p>■KBIエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）－クラスA</p> <p>世界（含む日本）の水関連企業の株式を主要投資対象とします。</p> <p>■日本短期債券マザーファンド</p> <p>わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。外貨建資産への投資は行いません。</p>
運用方法	世界（含む日本）の水関連企業の株式を実質的な主要投資対象とし、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

# ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2015年7月から2020年6月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

## 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversifaid

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

# 当該投資信託のデータ

2020年7月22日現在

## ▶ 当該投資信託の組入資産の内容

### 組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第13期末 2020年7月22日
KBIエコ・ウォーター・ファンド（ICAV）ークラスA	98.1%
日本短期債券マザーファンド	0.3%

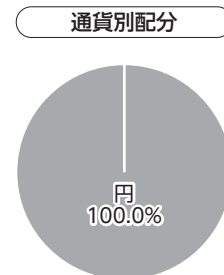
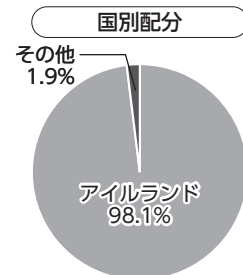
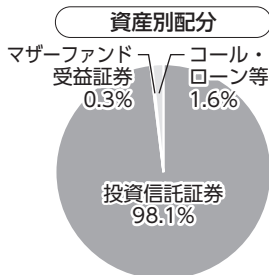
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

### 純資産等

項目	第13期末 2020年7月22日
純資産総額 (円)	3,264,538,966
受益権口数 (口)	3,384,724,289
1万口当たり基準価額 (円)	9,645

※当期中において追加設定元本は30,201,842円  
同解約元本は 484,680,162円です。

### 種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

2020年2月29日現在

## 組入上位ファンドの概要

## ▶ K B I エコ・ウォーター・ファンド (ICAV) - クラスA

## 基準価額の推移

2019年10月23日～2020年2月29日  
(円)

基準価額以外の開示情報につきましては、クラス分けされたものがないため、「K B I エコ・ウォーター・ファンド (ICAV)」ベースで表示しています。

## 1万口当たりの費用明細

2019年10月23日～2020年2月29日  
1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

## ▶ K B I エコ・ウォーター・ファンド (ICAV) 全体

## 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：46 (国内：2、外国：44))

	銘柄	国	業種	比率(%)
1	VEOLIA ENVIRONNEME EUR5	フランス	公益事業	5.5
2	UNITED UTILITIES GROUP ORD GBP0.05	イギリス	公益事業	5.4
3	KURITA WATER INDS NPV	日本	水処理技術	5.1
4	PENTAIR PLC COM USD0.01	アメリカ	水関連装置	4.7
5	XYLEM INC COM	アメリカ	水関連装置	4.3
6	VALMONT INDS INC COM	アメリカ	エンジニアリング	3.6
7	STANTEC INC COM	カナダ	エンジニアリング	3.5
8	MUELLER WTR PRODS INC COM SER A STK	アメリカ	水関連装置	3.4
9	ESSENTIAL UTILS INC COM	アメリカ	公益事業	3.2
10	ROPER TECHNOLOGIES, INC	アメリカ	水処理技術	3.1

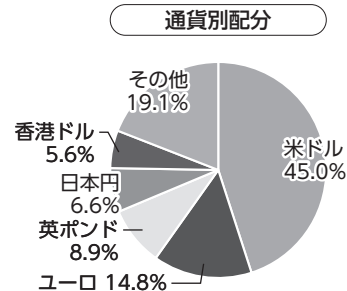
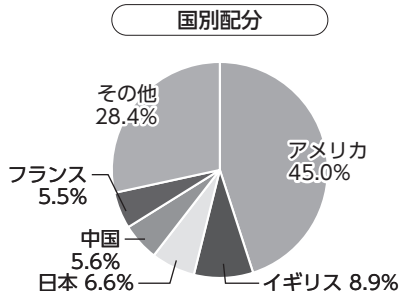
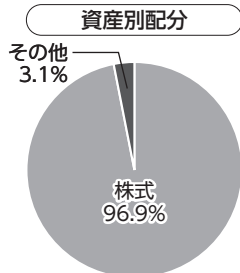
※比率はファンドの純資産総額に対する割合です。

※業種はK B I グローバル・インベスターズ・リミテッドが独自に分類したものです。

※国名は、各企業のビジネス展開等を考慮したK B I グローバル・インベスターズ・リミテッド独自の判断により区分したものです。



## 種別構成等



※比率はファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国名は、各企業のビジネス展開等を考慮したKBIグローバル・インベスターズ・リミテッド独自の判断により区分したものです。

968114

2020年7月22日現在

## 組入上位ファンドの概要

### ▶ 日本短期債券マザーファンド

#### 基準価額の推移

2019年7月22日～2020年7月22日  
(円)



#### 1万口当たりの費用明細

2019年7月23日～2020年7月22日  
該当事項はございません。

#### 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：19銘柄)

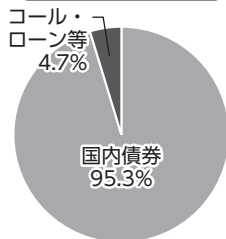
	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	第19回みずほ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	6.0
2	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
3	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
4	第17回シティグループ	債券	日本	社債	5.9
5	第75回アコム	債券	日本	社債	5.8
6	第48回韓国産業銀行(2018)	債券	日本	特殊債	5.8
7	第16回東京センチュリーリース	債券	日本	社債	5.8
8	第15回Zホールディングス	債券	日本	社債	5.8
9	第5回イオンフィナンシャルサービス	債券	日本	社債	5.8
10	第8回ケーティ	債券	日本	社債	5.8

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

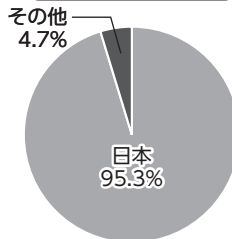
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

#### 種別構成等

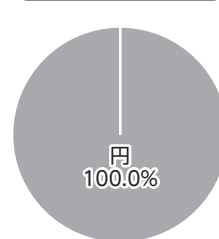
##### 資産別配分



##### 国別配分



##### 通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

# 指数に関して

## ▶ ファンドの参考指数である『MSCI ワールド インデックス (円換算ベース)』について

MSCI ワールド インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数です。MSCI ワールド インデックス (円換算ベース) は、MSCI ワールド インデックス (米ドルベース) をもとに、委託会社が計算したものです。また、MSCI ワールド インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

## ▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

### ●東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### ●MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ●NOMURA-BPI (国債)

NOMURA-BPI (国債) とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合) のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

### ●FTSE世界国債インデックス (除く日本)

FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信